

Changes in metamorphopsia after the treat-and-extend regimen of anti-VEGF therapy for macular edema associated with branch retinal vein occlusion

森, 賢一郎

<https://hdl.handle.net/2324/4784501>

出版情報：九州大学, 2021, 博士（医学）, 課程博士
バージョン：

権利関係：(c) 2020 Mori et al. This is an open access article distributed under the terms of the Creative Commons Attribution License.



氏 名： 森 賢一郎

論文名： Changes in metamorphopsia after the treat-and-extend regimen of anti-VEGF therapy for macular edema associated with branch retinal vein occlusion

(網膜静脈分枝閉塞症に伴う黄斑浮腫に対するTreat-and-extend法を用いた抗VEGF療法後の歪視変化)

区 分： 甲

論 文 内 容 の 要 旨

本研究は、網膜静脈分枝閉塞症（BRVO）に伴う黄斑浮腫に対して、treat-and-extend（TAE）法を用いた抗VEGF療法後の歪視変化を調べることを目的として行った。

対象は2014年4月から2017年4月に九州大学眼科で黄斑浮腫を伴うBRVOと診断され抗VEGF療法をTAE法で行い、18ヶ月間以上経過を追えた27例27眼。診療録を用いた後ろ向き観察研究。logMAR視力、中心窩網膜厚、黄斑浮腫の再発、M-CHARTSを用いた歪視量を評価した。

logMAR視力および中心窩網膜厚は、治療前と比較して治療後18ヵ月では有意に改善した（それぞれの中央値（四分位範囲[IQR]）は治療前0.30（0.15 - 0.52）および459（373 - 542） μm 、18ヵ月後0（0.08 - 0.16）および267（232 - 306） μm 。垂直と水平方向のM-CHARTSスコアの平均値は、治療前と比較して、1、6、12ヵ月後では有意に改善したが、18ヵ月後には悪化した。治療前、1、6、12、18ヵ月後のM-CHARTSスコアの中央値（IQR）は、それぞれ0.45（0.250 - 0.925）、0.4（0.15 - 0.70）、0.4（0.150 - 0.625）、0.4（0.225 - 0.550）、0.45（0.225 - 0.750）であった。黄斑浮腫の累積再発回数の中央値（IQR）は、18ヵ月後で2回（0.5 - 3.0）。単回帰分析および重回帰分析の結果、治療前と18ヵ月後のM-CHARTSスコアの変化は、治療前のM-CHARTSスコアおよび黄斑浮腫の累積再発回数と有意に相関していた。

TAE法を用いた抗VEGF療法は、BRVOに伴う黄斑浮腫によって生じる歪視を、短期から中期では改善したが、長期では改善しなかった。黄斑浮腫の再発によって持続的な歪視を生じる可能性がある。